

令和6年度 宮崎県立日南高等学校 学校評価

学校経営ビジョン	○ 創立100年を超える県南地域の伝統校としての経験を生かし、教育活動全体を通して知・徳・体をバランスよく確実に身に付けさせ、すべての生徒の進路目標達成を目指す学校 ○ EXCELSIORを校是とし、向上心をもって何事にも果敢に挑戦し、主体的に充実感あふれる有意義な高校生活を送ることのできる生徒の育成を目指す学校 ○ 地域と連携した教育活動を積極的に展開し、保護者や地域の期待に応え、地元を愛し地元に貢献しようとする生徒や国内外に目を向けグローバルに活躍しようとする生徒の育成を目指す学校			学校関係者評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか ・自己評価の結果は指標等を基にした妥当なものであるか ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか
本年度の重点目標	【学習支援の充実】① 主体的に学ぶ力の育成 ・深い学びに繋がる授業 ・個を伸ばす支援の充実 ・FTの有効活用 ・電子採点のデータ活用 ② 生徒端末の有効活用 ③ 読書活動の推進, 充実 ④ 教育課程の工夫改善 ※ 高等特別支援学校の併設準備 【生徒支援の充実】① 充実感を高める支援 ・規範意識と人権感覚 ・生徒主体の活動の支援 ・部活動の活性化 ・ボランティア活動の奨励 ② 教育相談の充実 ・不登校への組織的支援 ③ 安全防災教育の充実 ④ 自己管理力の育成 【進路支援の充実】① 進学支援体制の確立 ・学力分析とコーチング ・朝夕講座での実力養成 ・小論文面接指導の充実 ② キャリア教育の推進 ・体系的な講座等の企画 ・探究活動の充実 ・外部機関やOBの活用 ・留学、資格取得の促進 【信頼される学校づくり】① 家庭や地域との連携 ② 生徒に寄り添った支援 ③ 各種広報活動の充実 ④ 戦略的な生徒募集活動 ⑤ 高い進路実績づくり ・チャレンジ40, キープ30 ⑥ 学校安全と設備の充実 ⑦ 適正な学校事務の運営 ⑧ コンプライアンス遵守			※ 自己評価、学校関係者評価とも、1～4の4段階評価とする 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する
重点目標+B6:D14	評価項目	取 組 (P)	自己評価 (A) 方策・手立て (D)、結果の考察・分析及び改善策等 (C)	学校関係者評価 具体的意見
1 学習支援の充実	① 基礎的知識の定着と主体的・対話的な学びの実現	(1)「フェニックス・ナビ」の活用推進、家庭学習調査・特別学習指導・学習相談会の実施を通して、家庭での学習・個に応じた学習を支援し、基礎的知識の定着と学力向上を目指す。 (2) 研究授業週間等を活用してICTを効果的に活用した授業、新学習指導要領に即した授業の実践を支援し、主体的・対話的で深い学びの授業の実現を図る。	○フェニックス・ナビを担当が生徒とのコミュニケーションツールとして積極的に活用していた。 ○家庭学習調査を学期1回全学年実施した。タブレットを利用した調査方法、処理の仕方に課題が残ってしまった。調査後の有効活用が不十分であった。次年度は、処理方法の簡潔化を考慮した処理調査方法を検討する必要がある。 ○学期1回研究授業週間を設定して全教科実施した。ICT活用は全教科、積極的にされていた。次年度も主体的・対話的で深い学びの授業実践に向けた研究を継続していきたいと思う。 ○期末考査前に特別学習指導を実施し、個に応じた学習・基礎的知識の定着を図るための指導の支援をおこなった。 ○各学期末に学習相談会を設け、教務部、学年主任、学級担任、教科担任が協力して、生徒だけでなく保護者も交えて個別の指導・助言を行った。	3.0
	② 新学習指導要領・観点別評価と学校行事の研究	(1) <u>新学習指導要領・観点別評価</u> の研究を推進し、より良い教育活動の実現を目指す。 (2) 各部・各学年と連携し、生徒・職員が充実感・達成感を得ることができる学校行事の企画・運営を目指す。	○観点別評価が実施され3年目になる。評価の仕方、方法は各教科で工夫し実施されている。今後は、現段階で不十分な点について、内規等も再度、検討していきたいと思う。 ○未来リサーチ委員会を中心として、各学校行事の終了後、次年度に向けた改善点などを常に検討してきた。今後も、各部、学年等の意見を反映させ、より充実した学校行事の企画・運営を目指す。 ○教育課程登録については、科目選択者数の調整等を考慮にいった日程・方法を検討していく。	3.0
	③ 「朝の10分間読書」を通じて読書指導の円滑化を図る。併せて図書委員会活動の活性化を通じて、読書の楽しさを伝えとともに、学習に結びつく図書館の利用向上を図る。	(1) 職員・図書委員会・放送部と連携し「朝の10分間読書」を円滑に行う。 (2) 図書館利用率向上に繋がる雰囲気作りを推進し、読書量及び貸出冊数の増加や、蔵書の有効活用により大学入試・就職試験に対応できる実力の養成を図る。 (3) 図書委員の活動活性化を図りつつ、読書推進期間等を利用して「おすすめ本の展示」や新刊本PR活動など推進する。 (4) 読み聞かせボランティアを計画して、本校生徒が地域に根ざした積極的な活動の支援をおこなう。	○「朝の10分間読書」については、クラスの先生方の協力により毎朝円滑に実施できている。 ○図書館利用率向上の取り組みについては、館内の雰囲気作りとして季節にあった装飾や、おすすめの本の入れ替えを行ってきた。また、夏の地震後には、館内に散乱した本を生徒の協力もあって速やかに復元することができた。蔵書の有効活用については、担任の協力により、図書館で進路関係の調べ学習にも利用していた。 ○図書委員の活動定着については、年間を通して計画的に行事記録を行うとともに「図書館便り」を発行し、「おすすめの本の展示」を行うことで活動の活性化およびPR活動の推進に努めてきた。 ○読み聞かせボランティアについては、各学期で計画・実施することができた。実施に協力いただいた園に感謝したい。 ○生徒の貸し出し冊数については、ほぼ平年並みではある。今後も安定した貸出冊数の増加を狙いたい。	4.0

重点目標	評価項目	取 組 (P)	自己評価 (A)		学校関係者評価
			方策・手立て (D)、結果の考察・分析及び改善策等 (C)		
2 生徒支援の充実	① 高校生としての基本的生活習慣の確立、豊かな人間性と規範意識の醸成	(1) 生徒相互のあいさつの活発化と日常化を図るために、生徒会や部活動生を中心に朝のあいさつ運動に取り組む。 (2) 身だしなみの意識改善を図るために、授業等での常時指導を全職員で徹底するとともに、定期的な服装容儀指導を実施する。 (3) 社会のルールとマナーを守り、分別のある行動ができ、他人への配慮を忘れず、人間性・協調性に富んだ生徒を育成すると同時に、教員自身が率先垂範に努める。 (4) 生徒の個性を尊重し、人命尊重の精神を育成し、いじめのない環境を醸成するために、生徒一人ひとりに目を配り、居場所作りに努める。 (5) 規範意識の高揚を図るために、時間厳守、礼儀作法など、社会の常識や秩序を正しく理解させ、高校生として取るべき行動とは何かを考えさせる。	○年間を通して、生徒(部活動生及び生徒会等)、職員が一体となって正門でのあいさつ運動を実施した。この運動は、あいさつや風紀指導のみならず、生徒の表情観察や登校状況を把握できる絶好の機会と捉えており、生徒理解のための重要な活動の機会と考えている。 ○本年度の容儀指導は、常時指導の徹底を図りながら、各学期の始業日(計3回)にあわせ実施した。服装の乱れはないが、頭髮で再指導を受ける生徒がみられる。今後も風紀交通委員会を中心に全職員で平常の常時指導の徹底を継続的に図っていきたい。 ○LGBTQに配慮した取り組みとして、3年前より女子のスラックスを導入している。生徒の多様性に応じて、スカート、スラックス両方購入し、使い分けをしている生徒が増加している傾向にある。今年度より制服(スラックス)だけではなく、体育シャツの長袖を導入し、肌を露出したくない生徒への対応を図っている。 ○規範意識の高揚を図るための取り組みとして、「時間厳守」を徹底している。遅刻する生徒は極少数であり、授業も落ち着いて開始できており、職員自身が率先垂範に努めている。	3.2	・様々な取組の充実が見られるが、旧来型の取組については方法の見直しも必要かと思う。 ・各種委員会やボランティア活動等、生徒の主体性を大切にした基本的な生活習慣の指導がなされていると感じる。活動の振り返りや記録をアウトプットさせることによって、さらに発展させることができるのではないかと。 ・LGBTQ、スマートフォン、校則など近年の社会情勢に合わせ、生徒の多様性を尊重しながらもけじめのある対応がなされている。 ・部活動においても全国・九州大会で優秀な成績を収める生徒がおり、文武両道の充実した学校生活が過ごせるような学校づくりがなされている。 ・部活動は人とつながることの大切さを学べる貴重な場なので、今後も継続して充実させてほしい。 ・SCやSSW等の活用も含め、今後も悩みを相談しやすい環境づくりに組織的に尽力してほしい。
	② 部活動の充実強化、学校行事やボランティア等への自主的で積極的な参加の促進	(1) 帰属意識を高めるとともに、生徒の自主性を育成するために、生徒主体の運営を促し、生徒会活動や各種委員会活動、部活動や学校行事等の活性化を図る。 (2) 勤労の尊さや相手の立場に立って考えることの大切さを理解できる生徒、シティプライドを持った生徒を育成するために、ボランティア活動や地域行事への積極的な参加を促す。 (3) 部活動の意義を理解し、部活動で学んだことが日常生活や学校生活で生かせる生徒を育成するために、1年生への部活動加入を推奨し、文武両道を目指すとともに、奨励部を中核として部活動の活性化を図る。 (4) 情報端末(携帯電話など)の適切な使用について考えさせ、メールやSNSによる誹謗・中傷をはじめとする様々なトラブルを防ぐために、「日南高校 携帯電話利用五箇条」に基づいた指導を徹底する。	○生徒会執行部を中心に各種委員会と連携し、生徒総会やエクセルシア祭、クラスマッチや無限会等の行事を開催することができた。生徒が主体的に意見やアイデアを出し、例年以上に完成度の高い学校行事であった。 ○南生P協担当校の最終年度には、本校生徒会がリーダーとなり日南市役所、日南警察署、ヘルメット販売業者(大阪府)等と連携した「ヘルメット着用推進動画」を作成し、日南市の公式YOUTUBEにて公開されている。また、1月22日(水)に全校集会を開催し、動画を視聴し、ヘルメット着用推進への協力を促した。2月6日、7日の2日間を「ヘルメット着用推進DAY」と設定し、日南市役所、日南警察署、宮崎日日新聞の連携し、朝の交通指導と並行し、着用推進キャンペーンを活動を実施する予定である。 ○部活動については、放送部が全国大会へ出場し、第71回 NHK杯全国高校放送コンテスト アナウンス部門 第3位優秀賞 3年4組の 隈田原千聖(くまたばらちさと)さんが入賞した。奨励部である陸上競技部が南九州大会への出場を果たした。走り高跳びに3年2組の平部太陽(ひらべたいよう)さん、400Mハードルに3年4組の谷口永真(たにぐちえま)さん、4×400Mリレーに3年1組の山村玲未(やまむられみ)さん、3年2組の七島夕菜(ななしまゆな)さん、3年4組の神保美有(じんぼみゆ)さん、3年4組谷口永真(たにぐちえま)さんが出場した。また、野球部主将の3年4組の永山悠次郎(ながやまゆうじろう)さんが宮崎県高等学校野球連盟優秀部員表彰を受けた。その他、運動部・文化部ともに学業と部活動の両立を図りながら、各生徒が日々取り組んでいる。近年の生徒数の減少に伴う部員不足が課題となっている。 ○ボランティア活動については、日南市や各種団体と連携した活動を実施することができた。飢肥駅清掃、読み聞かせ、子ども食堂等、多くの生徒が積極的に参加し、豊かな人間性の育成を図ることができた。 ○3年前からスマホ等の校内持ち込みを許可し、時間と場所を設定し使用も認めている。数件の不適切使用により指導した生徒もいたため、今後一層の情報モラルや使用方法についての指導徹底を図っていきたい。 ○昨今、ブラック校則等のニュースが話題となっている。新しく改訂された「生徒指導提要」を基本に生徒、職員、保護者との対話を重ね、より良い校則に改訂できるよう努力している。	3.3	
	③ 生徒の心身の健康への意識向上及び教育相談活動の充実	(1) 定期健康診断等の結果をもとに生徒の健康状況を把握し、家庭との連携を図り、生涯を通しての健康づくりに取り組む。 (2) 健康観察・保健室での様子、教育相談室での相談、教育相談アンケート、職員からの情報などから生徒の心身の変調を早期に把握し、職員とのチームワークで生徒一人ひとりにきめ細やかなサポートができる体制づくりに取り組む。また、生徒の心の問題については教育相談室を中心としながら、状況に応じて外部関係機関と連携し、迅速な対応を行う。 (3) 教育相談・特別支援に関する職員研修・講演会の実施や関係する保護者・職員・外部機関との連携を通して、支援が必要な生徒が学習しやすい環境を整える。	○今年度も定期健康診断も滞りなく実施することができ、家庭と連携しながら、生徒の健康状況の把握に努めた。また、保健室から発刊する「ほけんだより」にて生徒の心身の健康についての知識や意識の向上に努めた。 ○年3回教育相談アンケートを実施し、生徒の不安や悩みの解消に努めた。不登校傾向にある生徒についてはケース会議を開き、生徒状況について職員間で共通理解を図り、生徒にとってよりよい方向に向かうよう今後の対応等について協議した。生徒の状況によっては、SSWやSCと連携し、面談やカウンセリングをお願いした。また、学期末ごとに「相談だより」等で、相談機関の案内をし、学校で悩みを相談しづらくてもあらゆる相談窓口があることを周知してもらう機会とした。今後も職員、保護者、専門機関と連携・協力しながら、生徒一人ひとりが過ごしやすい環境になるよう努めていきたい。 ○今年度は、本校カウンセラーの田中先生を講師にお招きし、「カウンセリング技法」という題目で職員研修を実施した。昨年度は授業における合理的な配慮や保護者との関わり方など、周りの環境の在り方についての内容だったが、今年度は、悩みを抱える生徒等の対応で必要になるカウンセリングについての基礎知識や手法について講話をいただいた。不登校傾向の生徒や悩みを抱える生徒に寄り添った支援が必要であることを再認識できた。	3.0	
	④ 環境美化活動と清掃奉仕活動の充実	(1) 環境美化に生徒・職員が一体となって取り組むことができる体制を整備し、快適な学習環境・職場環境の維持を図る。 (2) 美化委員会を中心とした環境美化活動を推進し、生徒の美化意識と奉仕の精神の喚起・啓発に努める。 (3) 地域と連携した清掃奉仕活動を実施し、地域に根ざし、地域から信頼される学校づくりに寄与する。	○今年度も清掃強化期間及び校内安全点検を学期に1回実施した。清掃強化期間については美化委員会が中心となり、全校生徒へ環境美化について喚起し、美化意識の高揚に努めた。また、校内安全点検については各清掃担当職員に依頼し、普段見逃しがちなところについても点検を行ってもらって、安全に過ごせる環境になるよう努めている。 ○1年生は日南市との連携事業である飢肥駅清掃奉仕活動を2クラス合同で実施し、普段取り組めないところまで手が届くように役割分担をした。また、12月に実施されたJR日南線構内美化作業ボランティアでは、修学旅行と重なったため、1年生の希望者のみの参加であったが、汗を流しながら一生懸命取り組んでいた。 ○一昨年度からは始めているゴミの各自持ち帰りについては概ね良好ではある一方で、一部おざなりになっているところもある。生徒たちへさらに美化意識の喚起を行っていききたいと考えている。	3.0	

重点目標	評価項目	取 組(P)	自己評価(A)		学校関係者評価	
			方策・手立て(D)、結果の考察・分析及び改善策等(C)			
3 進路支援の充実	① 生徒が有する多くの要求に応えるための企画や指導方法の研究と実践	(1) 3年生は各コースの特性を生かした進路支援を実践し、前年を上回る進路達成を実現する。 (2) 校内・校外模試については、結果の迅速な分析を行い、学力向上を目指すとともに、早期の進路決定と目標実現のための支援を強化する。また、種々の資料やデータを有効に活用し、進路支援に生かす。 (3) 分野別教養講座・オープンキャンパス・看護体験・ボランティア等へのチャレンジを促し、生徒の経験値を高めるとともに、 <u>ポートフォリオ</u> 等の活動の記録やその保管方法を工夫する。 (4) 総合型・学校推薦型・一般選抜への対応として、6月以降、小論文・面接指導を職員全体で行う。 (5) 1・2年生の学力検討会、3年生の進路検討会の時間を確保し、学力向上に向けた各学年の取り組みを支援する。 (6) 生徒だけでなく家庭に対しても、適切な進路情報を継続的に提供する。	○3年生については、4月当初に担任・教科担任団で成績や志望状況を互いに確認共有する会を実施して指導を開始した。年内入試(総合型・学校推薦型選抜等)の段階で、64名の生徒が内定を得ることができた。その内11名(昨年12名)が国公立大学であり、面談を通して生徒の希望や特性を見極めて出願指導をしたり、全職員挙げて面接や小論文指導に当たった成果と考える。 1・2年生については、対外模試の成績を基礎資料として現状把握や今後の支援につなげるための学力検討会を9月と12月に行った。 ○今年度リクルートの教材を用いて6月に1・2年生向け進路学習を行った。自分を振り返って自己理解を促すとともに、学問分野や世の中の仕事を俯瞰して希望進路を定めるための足がかりとした。 ○1年生を対象に新たに職業観育成講座を7月に実施した。昨年度から実施たもので、地元企業6社に講師を依頼し、働くことの意義や今学んでほしいことについて講話をしていただいた。昨年度は10月に実施したが、6月の進路学習との継続性を考え7月実施とした。 ○例年7月に行ってきた分野別教養講座(1・2年対象)を11月に実施し、教育課程登録時の参考となるようにした。今年度は昨年の熊本大学・崇城大学・熊本保健科学大学に加え、九州工業大学や大分大学にも依頼し、県外の大学に視野を広げさせることができた。日南において大学での講座を実体験する機会は大変貴重だと考えている。依頼する大学等や学問分野について、生徒のニーズに合わせて調整していく必要がある。 ○進路に関する様々な企画を行っているが、入試の基本を学ぶ機会を生徒・保護者向けに行う必要性を感じている。	3.1	3.6	・キャリア教育や総合的な探究の時間等の企画や活動が充実してきており、良い方向に向かっていると感じる。今後も外に出る、活動をする、活動を生み出すなど協働的な活動を通して、新しい発見に繋がっていくと良いと思う。 ・現役時代に他学部合格をしていますが、あえて浪人をして医学部医学科を目指し、今年度合格する生徒が出るなど、本当に目指したいものは何かを考えさせながらの進路支援がなされている。 ・知識に偏った学力ではなく、考えのすぐ出ない課題や数字で計れない部分の企画に粘り強く取り組む力を育てようとしている視点、取組が素晴らしい。今後は、その取組が先輩から後輩へと引き継がれていくことを期待したい。 ・外部講師や大学を活用して進路指導、受験指導に当たられ、生徒の可能性を伸ばす取組が非常に充実していると感じた。 ・課外を希望講座制で行うなど、生徒の多様な進路のニーズに柔軟に対応できている。 ・教材や企業等の講師による職業学習を行い、生徒が将来どの分野に進むのかを考える様々な機会をつくりながら進路指導が行われている。 ・生徒数がこの先どんどん少なくなるので、小学生や中学生の頃から学習に意欲的に取り組む子供が増えるような取組が必要であると感じた。 ・日南市役所としても、生徒向けのプレゼンテーションを行う上で自分たちの学びとなっている。生徒たちから出てきた企画や提案をひとつでもかなえてあげたい。
	② 進路支援体制の構築とキャリア教育の推進および計画的実施	(1) コースや類型に対応した、3年間を見通した進路支援体制を構築する。 (2) キャリア教育について、キャリア教育推進委員会を中心とした各校務分掌や教科との連携を密にし、加えて地域人材や専門家の活用を模索しながらより体系的・組織的に計画、実践する。また、探究・未来戦略課企画員会と連携し、「 <u>未来戦略課・Nichinan Project</u> 」の充実を図る。 (3) <u>新しい学力観</u> で求められる学力の向上の手立て、特に「大学入学共通テスト」で実力を発揮できる生徒の育成方法について研修の機会を設ける。 (4) 新教育課程に応じた指導の在り方について、教員間の共通理解を深める。	○自己理解から学問・職業研究、職業観育成、分野別教養講座を経て、3年生の7月には第一学習社の講師を招聘して志望理由書・小論文講演会を行うなど、進路学習の流れを作った。今後も取捨選択しながら改善していく必要がある。 ○未来戦略課は日南市役所のバックアップを頂きながら日南市の課題解決に向けた研究を、探究科学コースの生徒は自分の興味関心に則した内容で研究を進めてきた(Nichinan Project)。研究内容については未熟なものも多いが、「テーマ設定・研究・発表」という一連の流れの中で思考力や表現力の向上につながっていると考えている。企画委員会のメンバーを中心に関係各所と連携してきたが、全職員でサポートする体制作りが課題である。今年度は日南市の「よのなか先生」に対するインタビューを取り入れて研究の参考とする取り組みを取り入れた。 ○新課程入試については、各受験業者の開催するセミナーや研修会の案内を周知し、参加を促してきた。	3.2		
	③ 学力向上を目的とした指導方法の改善	(1) 朝講座と夕講座の実施方法を検証し、より効果的なものとする。 (2) 放課後の時間やFTを活用し、各学年において個に応じた指導体制を支援する。 (3) 課題テストや校内模試の位置づけを見直し、様々な支援に活用できる形式を検討する。	○今年度、朝課外の実施方法を大きく変更した。昨年度までは年間を通して全ての科目を受講するかしないかの2択であったものを、開講する科目のうち受講を希望する科目のみ選択できるように柔軟性を持たせた。また、前期と後期に分けることで、より生徒のニーズに対応できるようにした。生徒・保護者からの要望や地域性、職員の働き方など総合的に判断してこのような形態とした。今後はより充実させるための工夫や自走させるための仕掛けを行う必要がある。 ○3年生の高校総体後に夕課外を行ってきたが、今年度は「情報」の1科目に絞って実施した。共通テストで初めて情報が実施されることに伴って企画したが、放課後の時間帯にゆとりができ、小論文や面接の指導が行いやすくなった。 ○課題テストについては、年度当初の過密な日程や学園祭直前の実施をさけること、応用力を強化することを目的に、次年度以降は実力テストとして実施することを現在計画之中である。	3.3		

重点目標	評価項目	取 組(P)	自己評価(A)		学校関係者評価
			方策・手立て(D)、結果の考察・分析及び改善策等(C)		
4 信頼される学校づくり	① 地域との良好な関係の形成	(1) 高校説明会・オープンスクール・奨学金業務・教育課程説明会を適切に実施することで、地域・保護者の理解と協力を得られる学校を目指す。 (2) 各種行事・式典・入試業務等を確実に実施することで、地域に根ざし、地域の信頼を得られる学校作りに貢献する。	○高校説明会は、日南市内の中学校、串間市の中学校にすべて出席。できる限り日南高校の良さをアピールできるように努めた。次年度もパワーポイントの構成などに工夫をしていきたい。 ○オープンスクールは昨年度より多くの中学生が出席。在校生を積極的に活用して日南高校の普段の様子を中学生に伝えることができた。次年度もオープンスクールの内容などを工夫することにより、より一層中学生に魅力ある日南高校をアピールしていきたいと思う。 ○奨学金の連絡は、さくら連絡網を活用して全保護者に伝えることで、周知が徹底された。		3.0
	② 学校安全体制の確立	(1) 生徒・職員の命を守るために、危機管理マニュアル・学校安全計画の策定、学校安全研修・避難訓練の実施、事故・災害時対策(組織整備・備蓄品等)に取り組み、安心・安全な学校を目指す。 (2) 学校安全教育推進校として学んだことを生かし、地域及び関係機関と連携して効果的な避難訓練や研修を実施し、地震・火災・風水害等の緊急時に迅速・適切に行動できる集団の形成を図る。 (3) SPS(セーフティプロモーションスクール)の指定校として、教職員・生徒・保護者・地域とのネットワークを組み、組織的かつ継続可能な学校安全の取り組みが協働して実践できるよう環境整備に取り組む。	○危機管理については、今年度初めにAED・担架・製氷機の設置場所を教室配置図で分かるように写真付きで作成し、教室に掲示した。本校ホームページの教室配置図にも掲載してもらっている。また、熱中症等生徒の非常時対応のため冷却バックを、職員室、保健室には救急箱と一緒に保管し、加えて事務室にもを新たに保管することにした。備蓄品を新入生や新任職員のものに購入し、簡易トイレや水も追加で購入した。大きな地震や風水害が発生した際、本校は避難所になるため、避難所運営において地域や関係機関との連携が必要である。 ○SPS認証を受け、3年目となり、危機管理マニュアルや訓練の見直しを行っている。避難訓練については、1回目は時間の制約があったため避難経路の確認のみとなったが、2回目は、昨年度も実施したイベントカードを用いて、教室内で問題が起こった際の対応を行った上で、グラウンドへの避難を行った。(実際の地震災害では恐怖で動けなくなった生徒や余震で悲鳴・嘔吐する児童生徒、過呼吸が伝播していった学級などが確認されたということ、一方で耐震化されている学校が崩壊した事例はないということ、そして余震を伴わない大地震は存在しないという理由から今回もこのテーマで実施。)余震を示す緊急地震速報の報知音のたび、生徒たちは机の下に入る、その間教師は教室内の人数把握、生徒の緊急時(けが、過呼吸等)の対応等を他の職員と連携して行わなければならないなど、臨機応変な対応が求められ、実際に即した内容だった。点呼をした後の連絡の仕方など見直しをすべき点もいくつか上がったので、今後につなげていきたい。そしてこれらの対応を踏まえながらさらに発展して地域や関係機関と連携した避難訓練を検討していきたいと考える。		3.0
	③ 学校と保護者が一体となった組織的なPTA活動を推進する。また、親和会に関する企画・運営、同窓会との連携による教職員および学校全体の側面支援をおこなう。	(1) 役員および各種委員会の委員長と連携を密にして、各種委員会活動をはじめPTA活動の充実を図る。 (2) 県南地区の高P連の母親委員会副委員長校として各事業に協力する。 (3) 本校教育活動の記録として、紀要「天杉」を年度末に発行する。 (4) 黒潮同窓会と連携して、同窓会活動の改善を図り、学校・生徒の側面的支援をする。 (5) 職員間の親睦と厚生のため、親和会事業を適切に遂行する。	○PTA活動については、アフターコロナの活動の模索と並行して、くすぶり続ける感染症の影響を気にしながらの1年間だった。その中でも「広報」「研修」「生徒支援」の三委員会ともに、学校行事への協力を軸にしながら積極的に活動を展開していただいたことに感謝したい。 ○PTA主催事業については、「PTA総会」「無限会PTA協力」「合勝うどん」について、三委員会活動と役員との連携で保護者40～50名程度の協力のもと、計画的かつ盛大に実施することができた。「PTA奉仕作業(除草)」については、熱中症予防および休日出勤を減らす「働き方改革」の観点から休止したが、役員さんからは「必要とあらばいつでも協力したい」との心強い言葉もいただいている。 ○本校PTA広報紙「若潮」は、昨年「宮日PTA新聞コンクール」の優秀賞や「九州地区高P連新聞コンクール」の県代表に選ばれるなど大変盛り上がりしている。今年度も特集記事づくりに力を入れるとともに、生徒の活動も生き生きとした様子が伝わる紙面作りができた。今後も生徒、保護者から楽しみにしてもらえるような紙面作りを展開していきたい。紀要「天杉」も年度末に発行すべく、現在内容を集約中である。 ○同窓会との連携については、清水新会長のもと、新体制での活動に協力することができた。今後も学校と事務局の連絡を密にしていきたい。		3.8
	④ 日南高校の広報活動を推進し、地域における本校の信頼感と親近感を高めつつ生徒募集活動を支援する。	(1) 学校ホームページを適宜更新し、日南高校の教育活動を紹介する。 (2) 日南高校便り「EXCELSIOR」、ポスター・パンフレット作成、日南市広報紙「好きです日南」への寄稿等を通じて、生徒募集に寄与する広報活動を展開する。	○学校ホームページについては、昨年のトップページのリニューアルをはじめ、今年度は新着情報の発信態勢を見直し、行事後いち早い更新をすることができた。HP来訪者も月平均7,000人以上、多い月は1万人超の閲覧数に恵まれ、本校の情報発信の重要な手段となっている。今後は、ホームページの構成についても検討をおこない、全職員の組織的な運営の強化により中学生を中心とする利用者が、新着情報以外の本校の情報を的確に入手できるよう努めていきたい。 ○学校便り「エクセルシヨー」(日南・串間市内小中学校に配布)については、今期4回発行して学校の情報を発信してきた。今年度は行事後すぐに編集に取りかかる態勢を整え、タイムリーな発行ができたのではないかとと思う。また、学校ポスターも市内事業所約30ヶ所に掲示していただいた。また、市報「好きですにちなん」への寄稿については計画通りに行い、広報に資することができた。		3.0
					学校関係者評価
					具体的意見
					・地域との関係づくりにおいては、総合的な探究の時間やキャリア教育等を軸とした生徒主体で生徒が直接関わる活動が期待される。 ・学校が高台に位置しているため、津波や水害などの可能性は低いと考えられるが、災害対策については避難所として住民を受け入れる場合のプランなど、行政や地域と連携しながら充実させてほしい。 ・避難訓練が計画的に実施されており、生徒の安全確保についての取組が着実に実施されていると感じる。 ・「合勝うどん」は県内の高校でも先んじて実施されている行事であり、PTA活動については伝統的に積極的であると感じている。今後も学校、家庭、地域の三者が連携を深めてほしい。 ・県内の子供の数が減少傾向の中、生徒募集に苦労していると思うが、引き続き本校の良さをPRし、生徒確保に尽力してもらいたい。その手段として、オープンスクールの複数回開催や部活動単位での交流、実験教室、小学生向けへの取組を企画してみてもどうか。